

自然保護委員会の活動

お便り 冬号（12月） 2023

発行 神奈川県山岳連盟・自然保護委員会 編集 伊藤篤子

e-mail : shizen@kanagawa-gakuren.gr.jp URL: kanagawa-gakuren.gr.jp

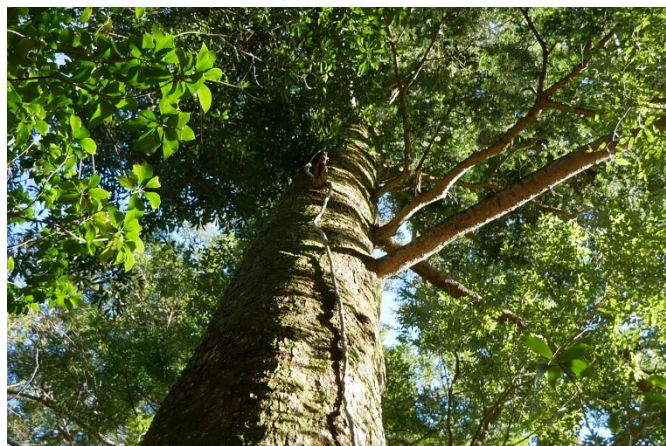
【活動報告1 環境登山・丹沢札掛の森：一ノ沢考証林】視察

12月17日（日）晴れ 札掛 気温3℃（朝8:30） 6℃（14:00）参加者3名（男2女1）

コース：札掛8:30→布川下流に沿ったトラバース登山道→一の沢峠入口→黒岩との分岐→唐沢川・物見川沿い林道→物見峠11:45→（往復）→札掛橋を渡り布川沿い林道を戻る14:30

活動目的：「丹沢札掛の森：一の沢考証林」視察。巨樹、巨木林を観る。札掛からの、登山道の様子。周辺の森林の成り立ちや、広葉樹や、整備林を観る。

丹沢札掛に車止めをして、公道の脇からつり橋を渡った。布川を下流に右岸から川添いの登山道をトラバースしていく。布川支流となる沢を渡渉し巨木と小高い丘地に、ベンチがある。これがモミの巨木なのかと木肌を触りつつ高く見上げる。銀色の木肌は、艶めき見上げた幹と枝は、力強くこの土地の空気と水を取り込むかの如く突き上げ広がる。どのくらい生きたのか？と問いかけたい。ああ。そうだよ。100年、200年、300年もつだよ。そして今も生きているね。証。ここからさらにこのモミの巨木群の登山道を歩いた。沢に近い低いところで、低木と



『スズタケ』・植生保護柵を観た。明るい林床を施し、シカ食害を守る。自然環境保全センター管轄で保護活動の説明看板。沢沿いは保護柵内・植樹あり。大木の林床は明るく広葉樹と混ざり合うというよりは、広葉樹群は沢から一の沢峠までの急勾配に連なっている。その辺りは多くが、時々混ざりながらもすみ分けて織りなしているように感じた。大きな杉や、ヤマザクラ、他の木々も樹齢があるごとな大木が点在している。そして登山道を遮る倒木は、モミの木自身が、その生命を終えていくかのような様相で苔をまとっていた。この森の自然林たちは『学術的考証林』と呼ばれ、太古からの自然林。江戸時代や明治時代も誰のものにもならなかった。天領でもなく。戦争中も切られなかった。昭和の時、開発の波にも負けず。（※）「ここに在る」という姿なのかもしれない。この森は、丹沢の中でも、『特別保護地区』。西丹沢地区とともにありながらも、離れた東丹沢地区で、飛地の限られたエリアです。開けた人の手の入ったところに降りる一の沢峠からは、林道は整備されつつも、山側の整備林の土砂崩れ箇所があった。物見峠入口トンネルわきには熊情報注意喚起の真新しい張り紙。上り口はカンアオイが群生し、そこに根を張っていこうとしている力強さを感じた。今年の熊たちは越冬までおなか一杯になれるのか。案じています。「ドングリ少なさ。」熊はお腹すいてるなら、リスだってお腹すくし、木の実、鳥だって食べたいし。森の年越しは、どんな眠りかな。復路、札掛に戻りました。ここは、集落があったとのこと。小学校跡など。人の暮らしもあったのです。視察この日は、清川村の里が物見峠から望むことができた。こうした里をつなぐ生活の道であったのだろうと思う。経ヶ岳からの半原超えの山と谷が見えた。お蚕さんを積み、背負う女の子の踏み跡もあったかもしれない。そんな山道かと思った。私たちの植樹活動では、「モミの木」を植

えました。二の塔・日本武尊の足跡周辺と、三の塔周辺です。次の世代のモミの木です。『自然に強い混交林の森林を思い描いています』日本列島は南北に長く、東北など寒い地域のブナ林があります。植生の知見から見ても、ここ丹沢は、関東以南の地域と東北など寒い所との重なり合う所です。全国から見て、丹沢は、ブナ林や、こうした針葉樹林のインクルーシブな地域のようにです。(南限)西丹沢はブナ林地域があります。今回はこちら東丹沢のエリア・かながわの美林50選の一つ「丹沢札掛：一ノ沢考証林」を観ることができました。東丹沢は原生林の残された森があり、集落跡があった。人の暮らしと自然との共生を考えさせられた。(※)空に鳥 森にけもの 川に魚を NPO 法人 丹沢自然保護協会六一年のあゆみ 夢工房 第一章環境の時代をさきがける 自然環境と公共工事 p61 「一ノ沢考証林」記載があります。



【活動報告2 登山道・維持管理・整備活動】

12月3日(日)曇り

参加者22名(男19、女3名) 川崎、横須賀、秦野、藤沢の各山岳協会、SC丹沢秦野・トレランチーム、個人会員、一般有志参加者 活動内容 ①イタツミ尾根上部登山道補修 ②落ち葉かき

イタツミ尾根上部、登山道補修活動は、雄姿面々での、大工事であった。私と、女性メンバー二人で、下部広場から熊手で掃き掃除を行った。登山道わきの落ち葉は掃いても掃いても延々と。そこで思った。この粘土質な土は、自然の中での風雨、オーバーユースでえぐれ流



れていく。丹沢の土の特徴だ。この道は掘られてそうした登山道になっている。そのわきに落ち葉は積もる。西の谷側から吹き上げて舞って積もる落ち葉たち。両脇、石積されたところがある。同じように枝や横木で支えてみた。自然を自然物で補う。必要最小限で必須ですべきことを思った。風を遮るお地蔵さん。「いつもありがとう。」春岳山△949のあたりから上、『水源林管理用径路』道標が2か所ある。関係者以外立ち入り禁止。この森の初めの一滴はこのあたりか?と思った。紅葉の豊かさも、景観も、秦野の水も、この地下水から……。木々は林や森は大地と水とで成り立っていくのかと見渡してみる。大山からの里地・蓑毛に下りながら春嶽沢になります。ここは金目川水系の支流です。イタツミ尾根・登山道、中腹に大木ブナの木があった。よく見ると登山道と西斜面に沿ってブナ林が連なっている。西から、北から巻き上げる風を遮って立つ。自然の木は、森は、新たに自然を造り、自らを守る山を造る。若木たち。そんな威風堂々だった。林床、高度の低いところは、『アズマネザサ』1cmくらいの直径の枝で1mくらいある。葉は細く緑。高度が上がるに向かって『熊笹』。希少種『スズタケ』は、ヤビツ峠周辺にも見受けられるようだ。岳の台の緩やかな登山道は、笹原や萱原が美しい。注意深く見て探してゆきたい。イタツミ尾根のぼりはじめ明るい所はほっこり一休みの丘。眼下に秦野の町が望めます。松と桜の大木があり、松の立ち姿の光景は箱庭のようです。桜の木の状態が少々心配に思う。(ナラ枯れ被害)それでも、その足元に、春、エイザンスミレを観た。あれは3年ほど前の春のこと。また、春を待ち遠しく思う。

【活動報告3 神奈川県山岳連盟・秦野市里山ふれあい森林づくり活動(仮称)】

12月23日(日)参加者10名 活動内容:蓑毛上、浅間神社周辺。リーダーからのチェーンソー伐木講習。

◇お知らせ◇ ◎山の自然セミナー 2月開催24(土)秦野山岳スポーツセンター/25(日)野外活動。詳細後日
◎環境省・自然公園指導員報告書取り3月まとめ 委員長・芹沢 県の機関提出◎クリーンキャンペーン取り3月まとめ 副委員長・三川 丹沢大山自然生委員会提出 [丹沢大山自然再生委員会 公式サイト](http://tanzawasaisei.jp) - (tanzawasaisei.jp)
◎JMCSA 自然保護指導員 JMCSA 公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 |

神奈川県山岳連盟・自然保護委員会